

『視覚支援で安定した生活を掴もう』

宮城県船形の郷 かまくら園生活支援課第一係・第二係
福祉 QC サークル名『ルック・ミー』

1.施設・サークル紹介

宮城県船形の郷かまくら園には、重度・最重度の知的障害者や自閉スペクトラムもしくは自閉的傾向がある、男性利用者 36 名、女性利用者 28 名、職員 42 名が在籍しています。私たちは利用者の意思を尊重した福祉サービスを提供し、安心・安全な生活ができる事を目標に支援を行っています。今回の QC 活動では第一係・第二係に在籍する男性利用者 36 名を対象としています。サークル名は視覚支援を行い、利用者の方々を今までよりも深く探っに行こうという意味を込めて『ルック・ミー』に決定しました。

構成人数	9 名	平均年齢	3 2 歳
現メンバーの活動歴	1 年目	本テーマの活動期間	6 か月
活動時間帯	日中活動	1 回当たりの会合時間	3 0 分
月当たりの会合回数	1 回	会合回数の合計	6 回



作成日：R5.5.6 作成者：黒澤(洋)

2.テーマ選定理由

	施設方針	重要度	可能性	期待効果	活動計画	緊急度	総合点数	総合順位
ユニット内の物が整頓されていない	▲	○	○	▲	○	○	16	4
活動のバリエーションが少ない	○	○	◎	○	▲	▲	24	2
他害、大声などの不穏行動が多い	◎	◎	○	○	◎	◎	324	1
職員によって記録の書き方が違う	▲	▲	○	◎	○	○	24	2

◎ 3 点、○ 2 点、▲ 1 点

作成日：R5.6.5 作成者：黒澤(洋)

かまくら園には、自閉スペクトラムや行動障害に該当する利用者が多く生活しています。日々の生活の中では、他害や大声などの不穏行動が多く、職員も対応しきれていない現状があります。他害や大声などの不穏行動を少しでも軽減し、安定した生活が送れるよう生活の質の向上を図るとともに、職員の支援の質の向上にも繋がると考え、このテーマを選定しました。

3.活動計画

アプローチ	主担当	5月	6月	7月	8月	9月	10月
テーマの選定	黒澤(洋)、鈴木	----->	----->				
活動計画	兵頭、田中		----->	----->			
現状把握	早坂、熊谷			----->	----->		
目標設定	若木、黒澤(工)			----->	----->		
要因解析	黒澤(洋)、田中				----->	----->	
対策実施	兵頭、鈴木					----->	----->
効果の確認	若木、黒澤(工)					----->	----->
歯止め	門脇、田中						----->
まとめ	黒澤(洋)、鈴木						----->

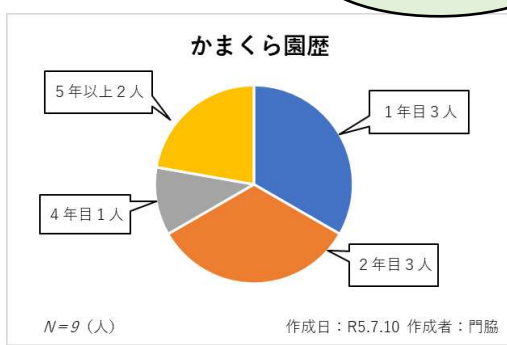
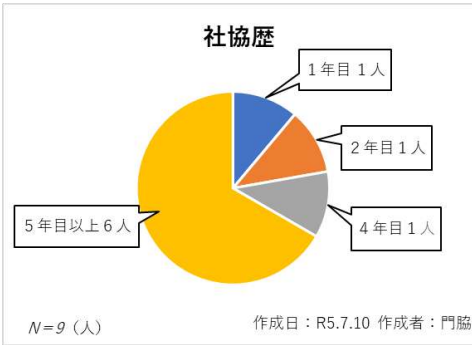
-----> 計画 -----> 実施

作成日：R5.6.17 作成者：田中



4.現状把握

【現状把握 1】職員（QCメンバー）についての調査



1/3が入職後3年未満、当園歴2年未満が半数以上を占めている!

★各職員の保有資格★

	社会福祉士	介護福祉士	強行修了者	その他
Z			○	
Y				
X				
W			○	社会福祉主事
V	○			
U				ヘルパー2級
T			○	社会福祉主事
S				社会福祉主事、介護職員初任者研修
R		○		社会福祉主事

強行修了者が3人と意外と少ない! 福祉系の資格を持たない人もいた!



作成日: R5.7.11 作成者: 熊谷

※強行修了者とは: 強度行動障害(周囲の人の暮らしに影響を及ぼす高い頻度で起こる人)に対する支援者養成研修の修了者を指します。

障害に対する理解度はどうか?

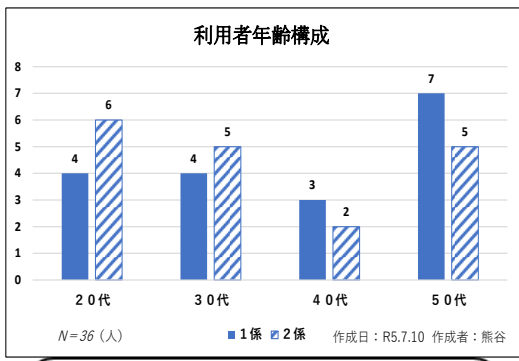
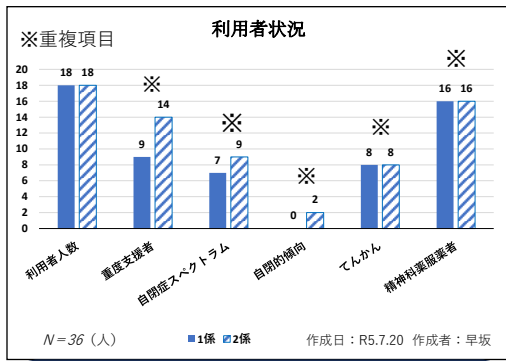
☆QCメンバーにアンケートを取りました。

- ・研修は受けて知識はあると思っているが、自信は無い…。
- ・歴も浅く、まだわからない事が多い。不安を感じる事もある…。
- ・強行修了者証持っているので、ある程度はあると思う…。



反応は様々でしたが、不十分と感じる職員が多い。

【現状把握 2】利用者についての調査

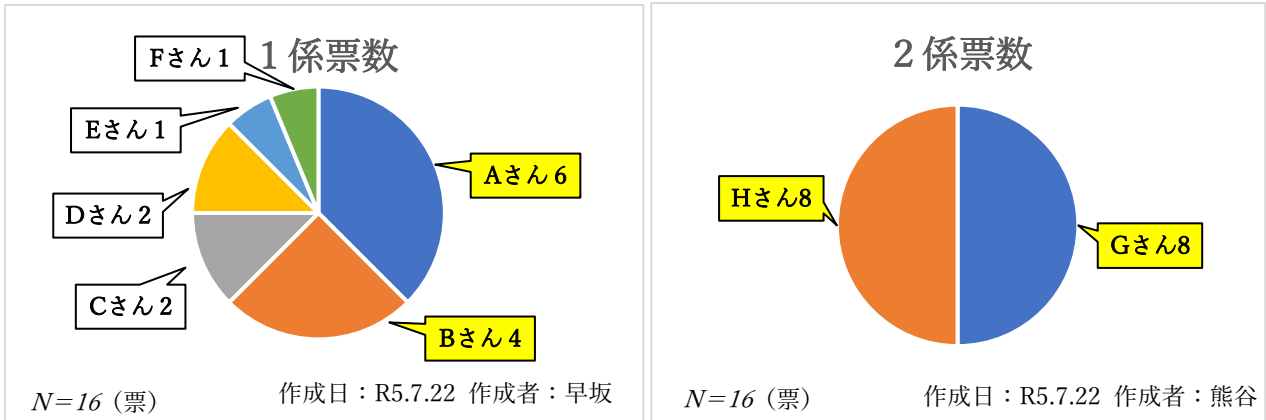


利用者の中で自閉スペクトラム及び自閉的傾向の方が50%以上を占める。精神科薬服薬者は88.8%

1係は50代の比率が高く
2係は20代、30代の比率が高い



【現状把握 3】 対象利用者選定のアンケート

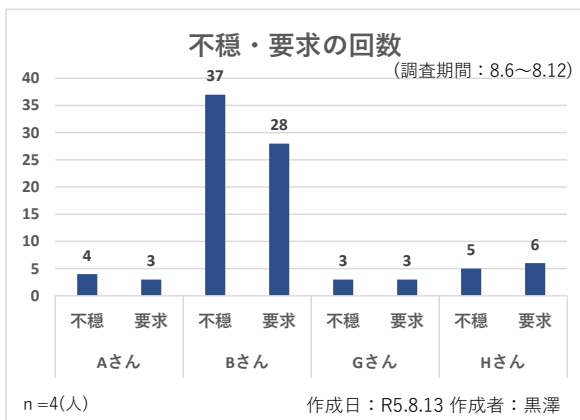


1・2係職員で、視覚支援を行う対象利用者選出のためのアンケートを実施。
1係は票が少しばらけたが A さん（6 票） B さん（4 票）に決定
2係は満場一致で G さん（8 票） H さん（8 票）で決定

★各利用者の選定理由

Aさん	普段から視覚支援を行っているが、より発展した支援が現状難しいため 定時にすることをその時間以外に要求されることがあるため、時間の流れを理解してもらう スケジュールを提示し、カード支援を行う事で見通しの立った生活をしてもらいたい 尿失禁や奇声等があり視覚支援の理解度があるので、失禁などを視覚支援で減らせるのではないかと
Bさん	言葉よりも視覚支援の方が、本人は理解しているように思われる。大声等の軽減に繋がりたい 重度支援で行っている視覚支援の反応が良い ある程度視覚支援を行って、理解しているように見える。本人の安定に繋がりたい
Gさん	不穏が多く、視覚支援を行う事で少しでも落ち着いて欲しい 視覚支援を行っているが、突然の不穏状態や他害行為、扉への頭突きも発生している。更なる改善が必要 より多くの視覚支援を行う事でより安定に繋げることができるのではないかと 生活のリズムは現在の視覚支援で整えているが、不穏の軽減のためにも取り組むべき
Hさん	洗濯・入浴要求が多い。スケジュール表などで生活の安定化を図る必要がある パニックや自傷行為を防ぐためにもスケジュールボードの活用は有効的 要望等を紙に書きだすことができる。生活習慣を表示する事で生活が良くなるのではないかと

【現状把握 4】 対象利用者の調査

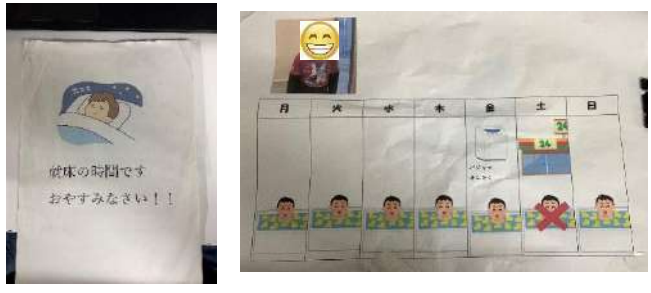


左記の期間で、4名の利用者の様子を調査しました。支援への反応はそれぞれ。全員が不穏状態になる様子が見られました。

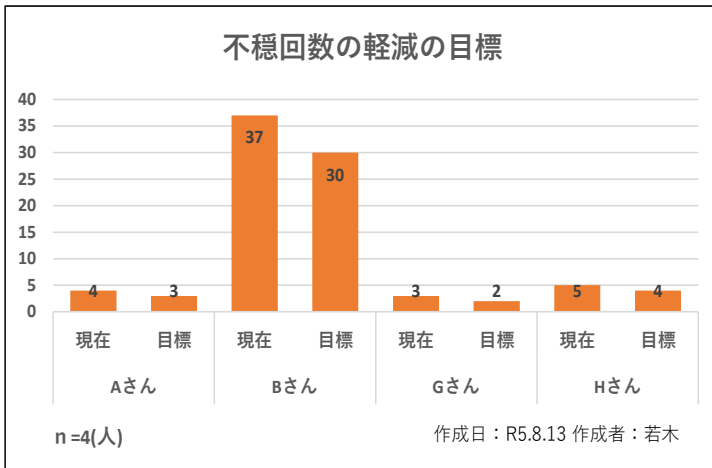
※不穏な状態とは…
自分の気持ちや行動のコントロールが困難になり、大声や奇声を出す・故意的に尿失禁をする・壁やドアを殴る・蹴るなどしてしまう状態。



実際に使っていた従来の視覚支援としての掲示物の一部です！



5.目標の設定

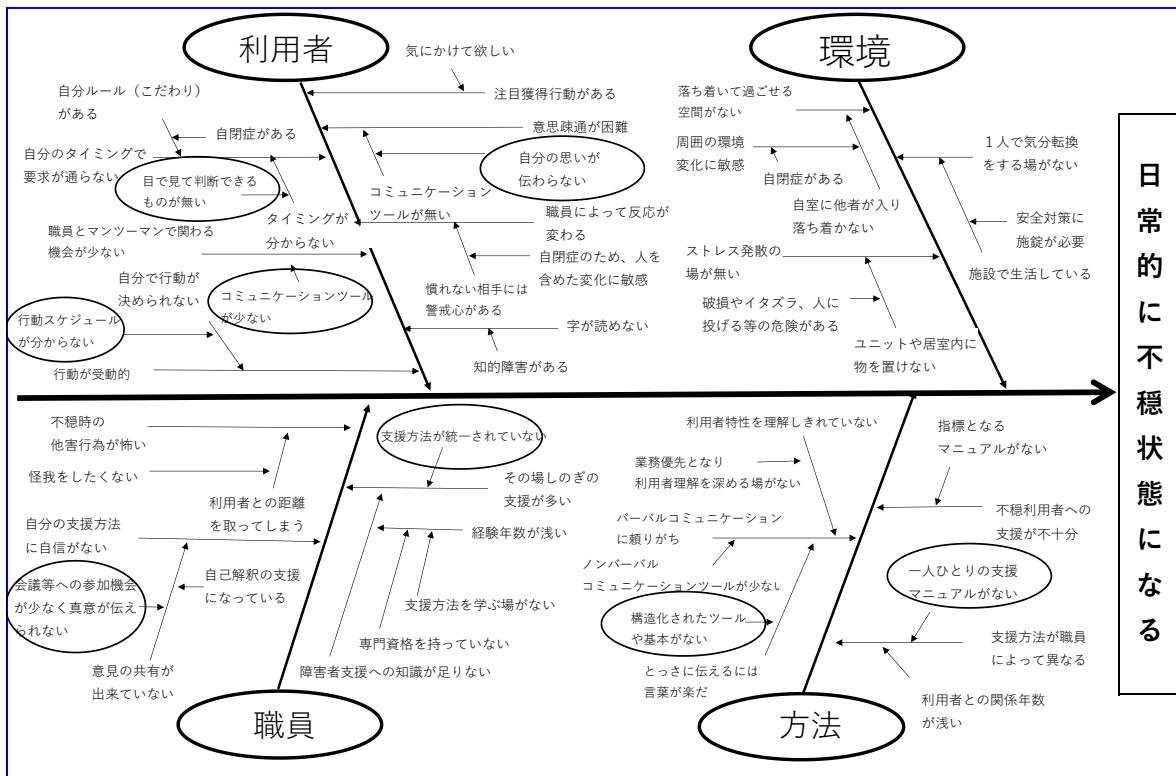


安心・安定の生活を手に入れるために…

10月7日までに利用者毎で
不穏回数 **20%減**を目指します！！



6.要因解析



作成日：R5.8.25 作成者：田中



利用者	自分の思いが伝わらない、目で見えて判断できるものが無い、コミュニケーションツールが少ない、行動スケジュールが分からない
職員	会議等への参加機会が少なく真意が伝えられない、支援方法が統一されていない
方法	構造化されたツールや基本がない、一人ひとりの支援マニュアルがない

作成日：R5.8.25 作成者：黒澤 (工)

7.対策の立案

	具体的要因	いつ	どこで	だれが	なにを	どうする
利用者	自分の思いが伝わらない	9月中旬	各係で	担当職員が	アセスメントを	実施する
	目で見て判断できるものが無い	〃	〃	〃	イラストカードを	作成する
	コミュニケーションツールが少ない	〃	〃	〃	〃	〃
	行動スケジュールが分からない	〃	〃	〃	スケジュール表やイラストカードを	改訂する
職員	会議等への参加機会が少なく真意が伝えられない	〃	〃	〃	係会議で支援に係る意見や気持ちを	相談し合う
	支援方法が統一されていない	〃	〃	強行修了者が	QC会議・係会議で支援内容を	統一する
方法	構造化されたツールや基本がない	〃	〃	〃	手順書を	作成する
	一人ひとりの支援マニュアルがない	〃	〃	〃	〃	〃

作成日：R5.9.1 作成者：兵頭

8.対策の実施

(対策1) 利用者に関する取組み

一人ひとりの特徴やできることを改めて理解するために、アセスメントを実施しました！



「できること」「できないこと(不向きなこと)」を改めて知り、これからの支援の軸を見出しました。

(対策2) 会議にて支援内容を見直し

アセスメントをして、どんな内容の視覚支援が必要か、効果的かを話し合いました！

普段なかなか聞けないこと、話せないこと、相談したからこそ言語化できた事をもとに、支援を考えました。



(対策3) 視覚支援に関する取組み

現状使用している掲示物や、支援カードを作成・改訂し、それぞれの特徴に沿ったものにしました！

メンバー含め、係職員皆で意見を出し合って作成しました。より簡素化した物や「できること」に着目し作成した物、作りながら気付いた事を支援に組み込みながら作成しました。



(対策4) 利用者への支援実施

改めて作成した物、新しく作成した物を活用し、利用者様への支援に反映しました！



初めは困惑したり、興味を示したりなど様々な反応がありました。徐々に、意識をする場面や、視覚支援を活用して自己意思を表現できるようになるなど、効果が見え始めるようになりました。



(対策5) 勉強会の実施

9月に、「強度行動障害支援者養成研修」を受講した職員による勉強会を実施。支援におけるポイントや方法について学ぶ機会を設けました。別日に当日受講できなかったメンバーへの伝達も実施しました。



(対策6) 方法への対策 視覚支援ツールを新たに作成または改訂しました！

実際に使用した視覚支援をご紹介します

Hさん スケジュール表							
	日	月	火	水	木	金	土
あさ							
ごぜん							
ごご							
よる							



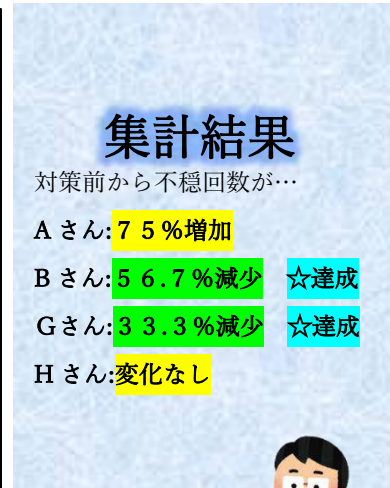
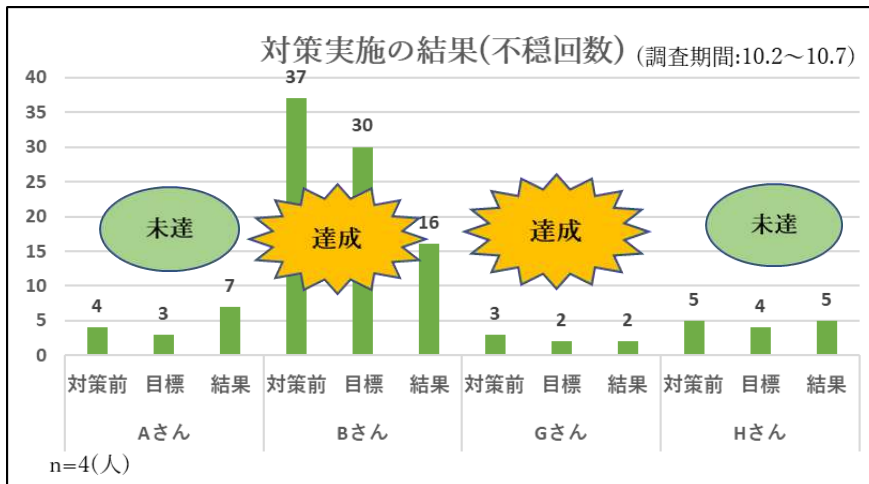
本人たちの特性や得意なことを生かせる、効果的な支援方法を考えました。



☆対策で気を付けたポイント☆

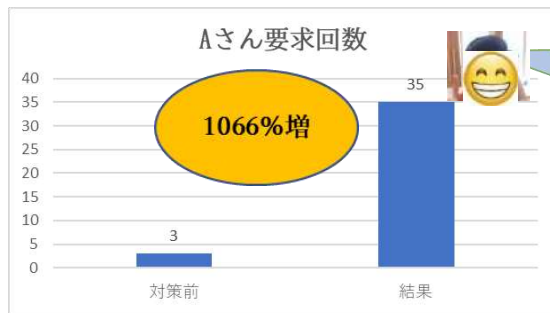
- ・実施に際し、QCメンバーだけでなく園全体で支援について相談し合った。
- ・一度取ったアセスメントでも、それに囚われないよう様々な角度からアプローチをかけて、利用者の反応を確認した。
- ・「利用者特性を理解しきれていない」という要因解析もあり、改めて今回対象となった利用者の過去のケース記録を確認し、特性や生活歴の深掘りに努めた。
- ・強行修了者が重度支援に係る知識や技術を周知させながら、全体的な支援の質の向上に努めた。

9.効果の確認



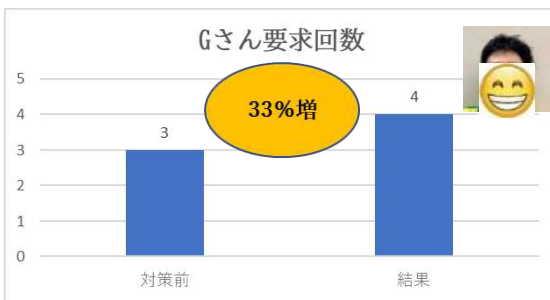
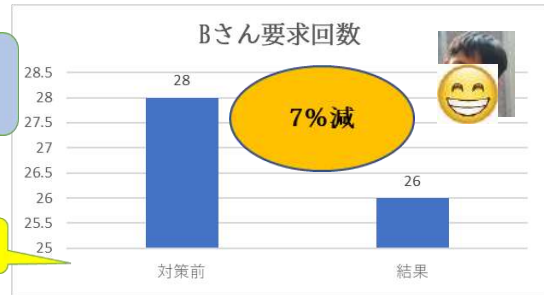
作成日: R5.10.8 作成者: 若木

〔現状把握4〕で調査した要求の回数についても確認してみました



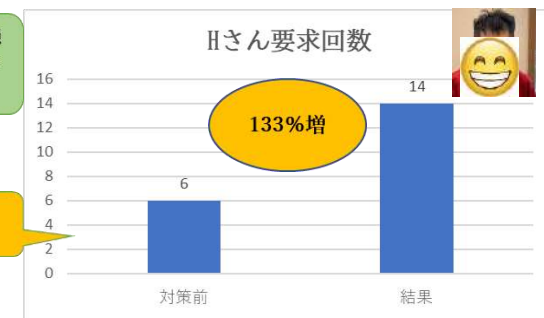
受動的な対応から意思表示できるようになりました

要求が減少し、視覚支援の効果が見えた



要求は増えたが、不穏回数が減少したことを評価

怪我が原因で要求増も不穏回数は減へ



10.波及効果

有形効果	自分の要求したことが、いつ行われるかが分かり待てるようになってきた (利用者) コミュニケーションボードにより自分の意思を表現できるようになった (利用者) 要求に対する職員からの説明に理解を示しやすくなった (利用者) スケジュールで見通しが立ち、朝方の大声が減少した (利用者)
無形効果	視覚支援に対する職員の興味や理解が深まった (職員) 支援の指標が出来た為、アイデアが浮かびやすくなった (職員) 対象利用者以外にも視覚支援をしてみようとする意欲が湧いた (職員) 職員同士での話し合いを重ねたことで、考えや思いを言語化しやすくなった (職員) 不穏状態が減ったことで職員・利用者ともストレスが減少した (職員・利用者)

1 1. 歯止め

具体的要因	いつ	場所	担当者	どのように	どうする
自分の思いが伝わらない	利用者対応時	各係で	強行修了者が	イラストカードを使用して	提示する
目で見て判断できるものが無い	利用者対応時	各係で	強行修了者が	イラストカードを使用して	提示する
コミュニケーションツールが少ない	適宜	各係で	強行修了者が	対象者の特性を考えて	作成・改訂する
行動スケジュールが分からない	夕食後	各係で	担当職員が	掲示物を	改訂する
会議等への参加機会が少なく真意が伝えられない	月1回係会議	各係で	担当職員が	情報共有・意見交換を行い	検討する
支援方法が統一されていない	月1回係会議	各係で	担当職員が	情報共有・意見交換を行い	周知する
構造化されたツールや基本がない	月1回係会議	各係で	担当職員が	情報共有・意見交換を行い	支援方法を学ぶ
一人ひとりの支援マニュアルがない	適宜	各係で	強行修了者が	視覚支援を基に支援マニュアルを	作成・改訂する

作成日：R5.10.12 作成者：門脇

1 2.まとめ

項目	良かった点	苦労した点
テーマ選定	現在不足していると思われるテーマが選定できた	色々な意見があり、まとめるのに時間が掛かった
現状把握	各係の現在の状況把握ができ、対象者へのアセスメントが深まった	どういうデータを収集すればよいかをもう少し時間をかけてできればよかった
要因解析	各要因の問題点を明確にし、何を改善するのか理解できた	1・2係合同で行っていたため、1つにまとめるのに時間を要した
対策の実施	普段の業務に組み込みやすく、スムーズに実施できた	カードの提示方法を検討する時間が足りなかった
効果の確認	全員ではないが、目標を達成し効果を確認できた	達成できなかった利用者への工夫が見出せなかった
歯止め	視覚支援の効果を確認し、今後の支援の幅が広がった	

作成日：R5.10.13 作成者：黒澤（洋）

1 3.今後の課題

視覚支援を初めて導入した方、これまでも行っていたが結果が得られていなかった方がいた中で取り組んだテーマ。様々な要因で不安定になることもあり、取り組んでいる中で目に見える具体的な成果を感じられなかった瞬間もありました。ですが、十分に調査を行い数値化することで、短期間の取組みでも支援の効果が現れた利用者もいました。今回は対象者によって効果が異なる結果となりましたが、継続して1年・2年・10年と取り組み、利用者理解を深め工夫を重ねることで、効果のパーセンテージは大きくなると実感しました。日々、利用者との関わりをより深く行う事で、利用者の気持ちを汲み取れる職員となり、安定した生活を支援できるよう今後も取り組んでいきたいと思っております。

